

ODA

しゃりん

73

沖縄脊髄損傷者連合会

編集: 沖縄脊髄損傷者連合会 TEL/FAX 098-886-4211
 〒903-0804 沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1西棟2階・ボランティア小規模団体室
 Eメールアドレス sekiren@proof.ocn.ne.jp
 ホームページアドレス <http://www.normanet.ne.jp/~ww500008/>

平成十九年度

九脊連研修会

去る8月18日(土)～19日(日) 福岡県春日市クローバープラザにおいて、平成19年度九脊連研修会が行なわれました。

研修1日目は、筑紫女学園大学非常勤講師の鬼木康麿氏による「広報活動とは何か」をテーマに、基本的な記事の書き方、伝え方を、実際に報道された新聞記事を参考に学びました。

2日目は、去る6月に開催された第6回全脊連総会東京大会の総括と九州各県の活動状況の報告があり、支部活動を展開していくために、活動拠点の確保、ピアサポート活動の実施、活動資金の捻出等、各県共通の

課題について、活発な議論となりました。最後に、来る10月、福岡県久留米市で行なわれる九州ブロック会議について福岡県支部から説明があり、次年度の全国総会千葉県大会に向けた提案事項をまとめて、ブロック大会に持ち寄ることを確認して閉会しました。

(報告:上里)



在宅リハビリテーション マニュアルDVDを 無償配布

今般の医療保険制度の改正により、リハビリテーションの保険点数が下がっていくなかで、脊髄損傷患者は満足なリハビリテーションをやりたくても出来ないのが現状です。一方、



医療技術の発達により脊損者の平均余命は向上したが、生存中のQOL、ADLを維持、向上させるためにもリハビリテーションは必要であります。

脊髄損傷者の生存率は、医学的管理の向上により飛躍的に向上しています。それに伴い、高齢化に伴う要因として成人病が増加しています。また、脊髄損傷者の死因として特有なものが、褥創による敗血症であり、除圧のための自己管理の徹底がより強調される必要があります。

さらに、受傷による変化の中で、関節運動の減少は関節拘縮を、身体運動の低下は生活習慣病を招き、さらに心理、脳血管障害を招くため、これらを予防する

ために適度な運動が奨励されています。脊髄損傷の合併症は、麻痺故に重篤化し易く、脊髄損傷固有のニーズに応えるリハビリテーションの必要性も高まっています。

そこで、受傷後の脊髄損傷者特有の合併症を防ぐためには、患者それぞれが在宅でも出来るリハビリテーションの方法を習得して実践することが効果的であり、「脊髄損傷者向け在宅リハビリDVD」を作成・頒布することにしました。

このDVDを活用することで、脊損患者それぞれがQOL、ADLを高め、社会参加の促進を図るとともに、関係する医療機関やリハビリテーションに携わる方々へも配布することで、

脊髄損傷者に対する連携したサポート活動につなげていきたいと思えます。

なお、今回のDVD作成にあたり、「特定非営利活動法人 日本せきずい基金」により、福祉医療機構（高齢者、障害者福祉基金）の平成18年度助成事業を活用しております。

（沖脊連会長・上里一之）
※脊髄損傷者向け在宅リハビリDVD「ステップb yステップ」を希望される方は、沖脊連事務局までご連絡ください。

【事務局】
那覇市首里石嶺町4-373・1（県総合福祉センター内）
電話 886-4211



時間95分
無償配布

沖脊連ビーチパーティー開催

去る9月1日（土）、恒例となる沖脊連ビーチパーティーが、残波憩いの広場にて行なわれました。今回は、スポーツクラブの「沖縄フェニックス」、「タートルズ」との合同開催となり、沖脊連の会員をはじめ、ご家族、スポーツクラブのメンバー、マネージャーなど約45名の方が参加されました。

会員の中には今回初めて参加された方もおり、脊連会長の上里氏の挨拶と紹介の後、サポーターも含め参加者全員が自己紹介をし、障害者スポーツの情報交換、日常生活での情報交換など交流を深めています。

た。

付き添いとして参加されたご家族やサポーターの皆さんも、共に食事をし海水浴や花火など楽しい時間を過ごしていました。今回の開催にあたり、ご協力を頂いたご家族、スポーツクラブのマネージャーやサポーターの皆様には心よりお礼申し上げます、楽しいビーチパーティーになりました事を感謝致します。※ビーチパーティーの様子は沖脊連ホームページでご覧になれます。

(報告事務局)

アーチェリー競技について

伊波 秀輝

今日は、アーチェリーというスポーツについて、わかり易く簡単にお話したい

と思います。さて、アーチェリーと聞くと皆さんは、まず何をイメージしますか？この競技は、弓に矢をつがえて放すという最も優しく、シンプルなスポーツの一つです。実際やってみるとわかりますが、誰でも簡単に的に当てることができます。しかし、狙ったところに何度も当てるとなると非常に高度な技術と体力と精神力を要します。アーチェリーがなぜ優しいスポーツであるかという点、年齢や性差、身体に障害がある人でも何らハンディキャップが関係しないのです。また、生涯を通じて楽しむことができます。現に世界選手権大会には、頸損の方や片腕しかないアーチャー（射手）もお

り、下は15歳から50歳を超えた選手まで出場していることも珍しくありません。しかも私が知る限り、それが対等に競技できる唯一のスポーツなのです。「腕の力が弱いとできない」と思われるかもしれませんが、弓の強さは何段階にも分かれており、自分の力に応じたものを使用すればいいだけのことなのです。競技は主に屋外で行われ、冬場はインドア競技もあります。アーチェリーができる広さの場所になると、かなり広い場所が必要です。そのため現在の練習拠点は、広い場所が確保できる鏡が丘養護学校のグラウンドを利用しています。矢を取るときの距離は、およそ30M〜70Mです

広告(エアー沖縄)

が、車椅子の人にとっては手の、歩ける人にとっては足腰の鍛錬にもなり何よりもストレスの解消にもなります。そしてアーチェリーはそれぞれの障害に応じて工夫と技術面、それなりの正しい姿勢と正確さを要求する運動である為に、集中

力と精神力も同時に養われます。メンタル面は特に大きく成長します。この競技ほど精神力・集中力を必要とするスポーツは他に無いのではと思うくらいに私自身楽しんでいきます。このようにアーチェリーは極めて単純なスポーツであるにも拘らず、深い魅力を兼ね備えている為、性別や年齢を問わず世界中で多くの人に親しまれています。そのような中で県アーチェリー協会

の方々との練習や、試合を通しての交流もあり充実感があります。技術面・精神面ともに足りない私ですが、これからもこのスポーツを通して上を目指していきたいと思えます。

西日本大会参加

去った7月28日、29日大阪府大阪市舞洲で開催された「ウイルチェアラグビー西日本大会ラウンド1、ラウンド2」に沖縄ハリケーンズが参加しました。大会は沖縄ハリケーンズ、HEAT, BlazersWRTの3チームによるリーグ戦で行われました。ラウンド1は、現役日本代表を3人も擁するHEATに29対30で競り負けてしまいま

した。続く2試合目は、BlazersWRTに57対36で勝ち、1勝1敗得失点差20でラウンド1を終えました。ラウンド2の初戦はBlazersWRTに41対35で勝ち、2試合目はラウンド1で負けたHEATとの優勝を賭けた大事な1戦、チーム一丸となり26対20でHEATを下し、3勝1敗で2年ぶり2度目の優勝を果たしました。MVPには日本代表で沖縄ハリケーンズの仲里進が選ばれました。2月に行われる「ウイルチェアラグビー日本選手権大会」にむけてこれからより一層練習し、次は日本一を目指して頑張っていくのでみなさんのご協力と応援よろしくお願ひします。

(報告:黒島祥吾)

広告(ちはる歯科)

毎月二十五日発行

ODA通巻399号

発行人

沖縄県南風原町字神里六三一
沖縄県身体障害者福祉協会

編集人

沖縄県那覇市石嶺町四一三七三一西棟2F
ボランティア小規模団体室・しゃりん編集部

上里一之

購読料は会費に含む

【頒価 二十円】